

7月22日(金) 18:00~ CP赤 GK緑

Aグループ予選 3試合目

日本 26(17-15, 9-15) 30 クロアチア

(戦評)

予選リーグ3試合目はクロアチア。日本はLW吉岡, LB中村風, CB行本, RB金城, RW中山, PV並木, GK榎でスタート。立ち上がり, 先制点をクロアチアに奪われ, オフェンスではシュートを立て続けに外してしまう。しかし, この日もディフェンスはよく機能しており, 前半3分, 相手のミスでNo.14中山が得点につなげ, 日本が初得点を挙げる。その後もシュートミスこそあるものの, No.5吉岡が2点決め, 6分過ぎまで3-3とする。しかし, そこからクロアチアのカットインや1次速攻によって離されはじめ, 11分過ぎに4-8とされる。ここで日本はタイムアウトを取り, 立て直しを図る。12分過ぎ, No.5吉岡のサイドシュートが決まり, それにNo.4浜, No.15金城らが続く。少しずつ日本のシュートが決まり始める。依然としてクロアチアの高い攻撃力に苦しめられるも, 相手のミスを実に得点に変えることができ始める。21分過ぎ, No.6行本の速攻によって, ついに11-11の同点に追いつく。クロアチアはタイムアウトを要求するが, 日本の流れは止まらない。タイムアウト明けの攻撃を守り, No.5吉岡が速攻を決め, 12-11と勝ち越す。さらにNo.4浜, No.14中山, No.15金城らがゴールを決めていき, 前半を17-15の2点リードで折り返す。

後半に入ると, クロアチアの反撃が始まる。2分過ぎにクロアチアにカットインを決められると, 日本のシュートミスを1次速攻につなげられ, 後半開始3分で17-17の同点に追いつかれる。さらに後半5分には17-18とリードを許し, そこから日本はクロアチアを追う展開になっていく。No.1榎のセーブもあり, なんとかついていこうとするも, 日本はオフェンスでミスが続き, 徐々に離されはじめる。17分過ぎに20-24と4点差をつけられ, 日本はタイムアウトを要求。その後, No.8並木の7mTが決まり21-24となるも, クロアチアの攻勢はやまない。終盤まで日本はチャンスをつかめないまま進む。しかし, No.14中山, No.15金城らが最後まで必死に戦い, クロアチアについていく。タイムアップの笛が鳴り, 最終スコア26-30の4点差でゲームを終える。

これで日本は1勝1分1敗。残り2試合, 強敵との連戦の中で, 何としても1勝が欲しいところである。

なお, この試合の優秀選手として, No.5吉岡が選ばれた。

(個人得点)

8点 吉岡, 7点 中山, 5点 金城, 2点 浜・並木, 1点 林・行本